

# 勢和小学校だより

発行日：令和6年9月3日

第8号

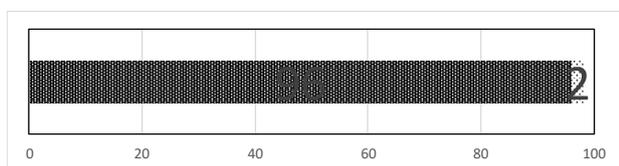


## 全国学力・学習状況調査の結果から

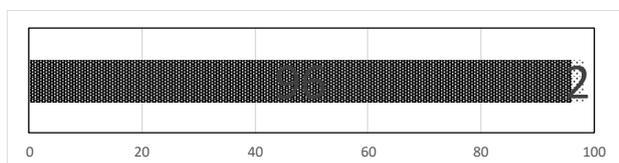
今回は、全国学力・学習状況調査の中から学習状況、生活状況について主な結果をお知らせします。グラフでは、「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」を肯定的回答、、「どちらかという当てはまらない」「当てはまらない」を否定的回答、として表示しています。

※いずれの回答でも無回答があったため、数の合計が100%にはなっていません。

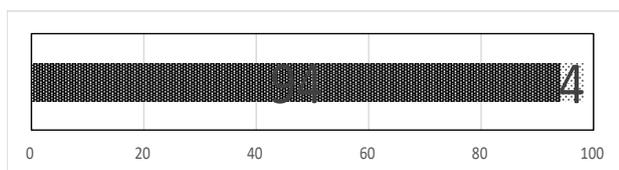
Q1：人が困っているときは、進んで助けていますか。



Q2：人の役に立つ人間になりたいと思いますか。



Q3：友だち関係に満足していますか。

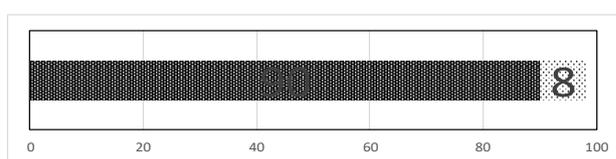


<分析>

Q1からQ3は、友だち関係・人間関係に関する回答結果です。いずれも全国比と同等以上の結果で肯定的回答が多いです。

一方で、特にQ3において、友だち関係に満足していない否定的な回答をしている人がいることから、誰もが安心できるクラスづくり、学校づくりをより一層進めていく必要があります。

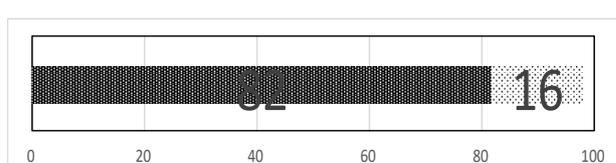
Q4：朝食を毎日食べていますか



<分析>

朝食を食べていないという否定的回答をしている人が複数名います。体調面、学力面、生活習慣でも朝食は大切です。生活の見直しを含め、ご家庭でのご協力をお願いします。

Q5：自分には、よいところがあると思いますか。



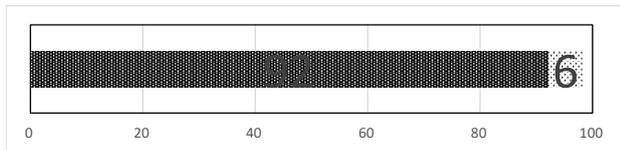
<分析>

80%以上の方が肯定的に回答をしている一方で、否定的回答をしている人がいます。この否定的回答は全国比より高くなっています。

「自分がみんなから受け入れられている」という安心できる雰囲気の中で、「できた」「上達した」という達成感や課題意識や自治意識を高めみんなに貢献できたという充実感を味わわせるなどして、自己肯

定感を高めていきます。

**Q6: いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか**



<分析>

90%以上の方が肯定的回答をしている一方で、否定的回答をしている人がいました。

「理由があればいじめてもよい。」とする考えは、新たないじめの発生やいじめの連鎖・拡大につながりますし、根本的な問題の解消にはつながりません。

学校全体で「どんな理由があってもいじめはいけない」という認識を広げ、深めていく必要があります。



**Q: その他、学習習慣・生活習慣についての分析**

学習習慣・生活習慣の大まかな傾向として、本校児童のテレビやゲームなどのメディアに触れる時間は、全国と比較して高く、動画視聴の時間も全国を2%ほど上回りました。

また、平日に授業以外で勉強する時間について30分以下または0分とした回答が全国と比較し8%ほど多く、勉強よりメディアやネットに触れる時間の長いことが分かりました。

テレビやゲームなどのメディアやICT機器は、優れた道具でありこれからの生活には必要なものです。だからこそ、切れ味抜群の包丁を扱うように、優れた道具の使い方を誤らないために、正しい使い方を学んだり、ルールを決めたり、自分で意識して使ったりする必要があります。

メディア中心の生活にならないよう、言葉がけをお願いします。

## 学力向上の鍵は読書習慣の定着



本校では読書活動に力をいれており、図書委員会の取り組みの他、朝読、みんなで読書、ビブリオバトルなどにも取り組んでいます。

全国学力・学習状況調査の読書に関する本校の結果はここ数年、家庭読書の時間が少ないことが分かっており、昨年度は家庭読書時間0分の児童が13%、0分～10分の児童が23%という結果でした。

ベネッセ教育総合研究所が2023年10月に発表した「子どもの読書行動の実態 ～調査結果から分かること～」では、「蔵書が多い家庭の子どもほど読書時間が長い」「本を読む大切さを伝えている保護者の子どもほど読書時間が長い」ことが発表されています。

昔から「書は万倍の利あり」と言われているように読書には様々な効果があります。メディア中心の生活にならず、子どもたちが読書が好きになり、読書を通して成長していくためにも、今後も読書活動へのご理解とご協力をお願いします。

